

令和元年 10 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
平成 31 年度 第 9 回

今日、ご紹介する書籍は『いつまでも若々しく生きる』（中村天風述 日本経営合理化協会）です。私はいつまでも若々しく生きるつもりであると思っておられる方？ そうそう若くはいられないと思っておられる方？ ……皆さん、いつまでも若々しく生きると思っておられるようですね。想いは形に表れます。いつまでも若々しく生きたいと強く思う方は、この本を真剣に読んでみて下さい。

先ほど論語素読を致しましたが、いつまでも若々しく生きたいと思う方は、腰骨を立て胸を張って、顎を引いて読まれます。福島幹事の素読も良うございました。テキストの『素読論語』は、文章を区切るところが分かりやすいように文字と文字の間を半角、或いは全角空けて、自然と上手に読めるように工夫しています。福島幹事の素読は間がしっかり空いて上手でした。ただ、イントネーションが若干ずれていたもので、そこを気をつけると更に良くなります。

来月の特別フォーラムは、渋沢栄一についてお話致します。少年期、青年期、中年の頃、そして老年と渋沢栄一がどういう一生を送ったか、その流れの中で特にどこら辺がポイントになるかをお話しようと思っっています。渋沢栄一の青年期は、江戸末期から明治維新の頃ですから、一部の若者は血沸き肉躍るような熱狂状況だったわけです。ちょうど今、香港で若い学生たちが先頭を切って大変な騒ぎが起きていますが、それと似たようなものです。毛唐ども（外人）を見たら殺してくれよう！ という風潮にかぶれて、行動力があるものですから、一番近い城を攻め滅ぼし、天下に号令をかけて人を集め横浜の外国人居留地を襲ってやろう・・・と、今でいえばテロを計画するわけです。親の金をくすねて、それで武器を買い込み、同志を集めて行動を起こそうとしました。しかし、寸前でやめたので実行には至りませんでした。

熱気が冷めると、今度は幕府に捕まらないように家を出て京都に行き、一橋家に雇って貰うことになります。そこで実力を認められ、徳川昭武に随行してフランスに行つて素晴らしい最先端の思想を身につけて帰つて来るわけです。渋沢栄一の凄いところは、知識を身に入れて終わるのではなく、全部現地に行つて体験をし、仕組みを研究してきたことで

す。例えば、パリで上下水道やガス管が敷設されていることに驚愕し、実際に地下に潜って調べました。また、そのような資金は広く国民から金を集めていることを銀行家に聞き、合本組織について学びました。渋澤栄一は体験したショックを全て身体で味わって、そして日本に帰って来てしばらくすると、日本で最初の銀行をつくって、ガスや水道事業を興したり、鉄道を敷くなど、多方面にわたり大変な活躍をしました。

帰国後は明治政府に呼び出されて渋々任官するわけですが、明治政府が渋澤栄一に目をつけた理由は、渡航の際に持っていったお金を使いきるのではなく、それを元手にして増やして帰ったことが新聞に載り、資金繰りの知恵も行動力もあるということで、新政府の目に留まったというわけです。渋澤栄一はもともと明治政府に仕えるつもりはなかったのので、新政府の最高実力者の大久保利通と喧嘩をしたのを契機に退官し、そして銀行を作ったという経緯です。

渋澤栄一の一番のエネルギーは何かというと、論語です。論語に出会ったがために、テロに走った。「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」という台詞に魂を揺すぶられ、エネルギーがほとぼしったのです。後に、本人が「私の人生は20代から30代で終わり。後はおまけの人生だ」と語っています。そのおまけの人生で日本の資本主義の父と呼ばれるような功績を成し遂げました。ですから人間、最初にどこでどういう火を点けるかということが肝心ですね。渋澤栄一は論語に惹かれて、一生涯論語を離しませんでした。小さなポケット論語を作って常に持ち歩いて、人様にも差し上げていました。ですから論語を学ぶことが着火点で、それで渋澤栄一の一生が固まっていったと私は見えています。

中斎塾フォーラムは学び方を覚える場所です。そして、学び方は陽明学をベースにしています。先日、東京フォーラムの会員さんから、朱子学と陽明学の違いは何かと質問されました。簡単に言うと、朱子学は素直で勉強熱心、聞きわけの良い人を作る学問です。言い方を変えると、組織で都合の良い人です。江戸幕府は儒学（論語）を朱子学で学ぶことによって、聞きわけの良い高潔清廉な武士を作っていこうとしたわけです。

一方、陽明学は実力を持ち、正しいと信じたなら真つすぐに進む人を作る学問です。周りから見ると横紙破りで扱いつらいけれども実力はある。山田方谷にしても河井継之助にしても、実力がありました。江戸幕府も後半になると各藩とも衰えて、財政もひっ迫していましたから、武士以外の在野にいる実力のある人間を登用しなければ立ち行かなくなるわけです。その中で優れた者が認められて名字帯刀を許されるようになり、最終的には藩の家老くらいまで上り詰めました。ということで、陽明学を学ぶ人間は実力を持っていて、その道にこの人ありと言われる人が多いようです。ただし、人間付き合いは下手ですから、

上から引っ張り上げてくれる人が必要です。

夜寝る前に・・・恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。

○ ここ1ヶ月、良い日が続いたと思う方

○ ここ1ヶ月、嘘を全くつかなかった方

では、比較的嘘をつかなかった方

こういう聞き方をすると皆さん手が挙がりますね。

○ ここ1ヶ月、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

○ ここ1ヶ月、自分なりの健康法を毎日続けている方

手が挙がらない人は、寝る時、又は朝起きた時、呼吸法をすればよいのです。お腹に手を当てて、口からはあ一つと息を吐きます。お腹の空気をすべて出し切ったら、鼻から息を吸う。お腹をへこませたり、膨らませるようにすればOKです。これを何回かやれば健康法の実践になります。

○ この1ヶ月、自分磨きをしていたと実感のある方

自分磨きは何でもよいのです。心を磨くのも自分磨きですし、身体を磨くのも自分磨きです。基本的に自分が向上するようなことをプラス思考でやればよいわけです。

○ 昨晚寝る時に明日以降のことを過去形でイメージして寝た方

12月のフォーラムでは、この質問に真っ先に手を挙げた方にどんなイメージだったか発表して戴くとよろしいですね。

三年の喪は・・・

では、論語の視点に参ります。本日は陽貨篇 21 です。

【二十一】さいが と さんねん も き すで ひさ くんし さんねん れい な れい かなら
宰我 問う、三年の喪は、期 已に久し。君子 三年 礼を為さずんば、礼 必
こわ さんねん がく な がく かなら くず きゆうこく すで つ しんこく すで みの
ず壊れん。三年 楽を為さずんば、楽 必 ず崩れん。旧 穀 既に没きて、新 穀 既に升る。
すい き ひ あらた き や し いわ か いね くら か にしき き
麩を鑽りて火を 改む。期にして已むべしと。子 曰く、夫の稲を食ひ、夫の 錦を衣る、
なんじ おい やす いわ やす いわ なんじ やす すなわ これ な そ くんし も
女に於て安きかと。曰く、安しと。曰く、女 安くば 則ち之を為せ。夫れ君子の喪に
お うま くら あま がく き たの きよしよ やす ゆえ な
居る、旨きを食えども甘からず。楽を聞けども楽しからず。居処 安からず。故に為さざ
いま なんじ やす すなわ これ な さいが い し いわ よ ふじん こうま
るなり。今 女 安くば 則ち之を為せと。宰我 出づ。子 曰く、予の不仁なるや、子 生
さんねん しか のち ふ ぼ ふところ まぬか そ さんねん も てんか つうそう よ そ
れて三年、然る後に父母の 懐を免る。夫れ三年の喪は、天下の通喪なり。予や、其の
ふ ぼ さんねん あいあ
父母に三年の愛有るかと。

宰我は、口八丁手八丁の子貢に並び称されるような、とても弁舌爽やかなお弟子さんです。このフォーラム会場のような部屋を想像して下さい。その中で、宰我が先生に質問している。そういう場면을イメージして下さい。

「三年間喪に服するといいますが、私は一年でも長すぎると思います。君子が三年も喪に服して何もしなければ、世の中は停滞してしまいます。三年間も音楽を奏しなければ、礼楽の道も壊れます。一年経てば去年の穀物は食べ尽くして無くなり、新しい穀物が豊かに実るのが普通です。新しい年になれば、神木を切って神様に供える火を作り直すものです。喪に服するのも一年でよいのではないですか。」

孔子が、またお前はそういうことを言う…という目つきで宰我をじろっと見て答えます。

「お前は、一年経てば喪が明けほっとして美味しい米を食べ、きれいな服を着るのかね。」

宰我：「私は一年経てば喪は終わりだと思い、ほっとします。」

孔子：「お前がそう思うなら、そうすればよい。身内が亡くなった時は美味しいものを食べても甘くはなく、音楽を聴いても楽しくはない。どこにいても心が落ち着かないものだ。それでもお前が安堵するのであれば、好きにしたらよい。」

宰我が退出し、孔子が他の弟子たちに向かって言いました。

「まったく宰我は薄情者だな。子は三年育ててやっと親の手を離れるものだ。三年間喪に服するのは世間では当たり前に行われている。宰我だって三年のあいだ両親に愛されて育てられたのだから、そんなことを少しも感じないのかね。」

弟子たちに語った言葉が宰我に伝わって、宰我が反省するのを孔子は期待しているわけです。

「旨きを食べども甘からず」とありますが、本当にそういうことはありますね。私は娘を亡くして来年が7回忌になりますが、亡くなった時、私は無理やりご飯を食べました。しかし、じわりじわりして全く味がしませんでした。必死になって食べても体重は激減しましたし、体脂肪も1週間でかなり落ちました。いくら食べても体力は衰えるばかりだったという実感があります。

孔子は24歳で母親を亡くしました時、琴を弾じて歌おうとしても声が出ないで、10日経ってやっと声が出たという記述があります。ですから相当、親に対する情が深かったと感じます。

日本の近未来

明日は前橋で群馬郷学会の講演会がありまして、「日本の近未来」というテーマで話を

致します。その中で、少子高齢化について触れようと思っています。

少子高齢化という言葉はこの先、少子→無子、高齢化→重老齢化に置き換えられるそうです。現在、日本の出生率は1.42です。2人以上子供を産まないとな数は減るわけですから、30年後、50年後、100年後、日本の人口は何人になるのでしょうか。

重老齢社会というのは、後期高齢者が前期高齢者を上回る社会のことで、これは世界保健機構が定義づけをしているそうです。2025年には団塊の世代が75歳以上になり、人口の20%弱が後期高齢者になります。

いずれにしても日本はどんどん人口が減って、年寄りだらけになるわけです。少なくともこれが続いていけば国家消滅です。国家が国家としてその機能を果たせなくなるのは何年後か、計算上だけで見ると、それ程遠い話ではありません。こういった話を明日致しますので、お時間のある方はどうぞご参加下さい。

では、時事評論に参ります。

何度も申し上げますが、新聞はあくまでも自分自身の考えるヒントだとお考え下さい。事実を事実通り掲載していませんから、自分が考える時のヒントとして役立たせれば良いと思っています。新聞は今、そういう代物になっています。

・自衛隊の中東派遣検討・・・米構想参加せず（10/19 日経新聞）

自衛隊の中東派遣とは何なのか。考える基準は、本質・歴史・大局の視点から見ることです。

ホルムズ海峡を船舶が通る際、拿捕されたり攻撃される危険性が非常に高い。それに対してアメリカが先頭切って、それぞれの国が軍隊を出して安全に運航できるようにしようと「この指とまれ！」とやったわけです。そして、バタバタと参加する国が出ました。日本はアメリカと仲良くしたいわけだからすぐにアメリカの指にとまるかと思いきや、ぬらりくりとしてとまらない。

その理由を歴史的にみると、前回お話しした日章丸事件と非常に似たような状況です。いじめっ子の総大将のアメリカがイランを懲らしめようと「この指とまれ！」とやっているわけですが、日本は長い間イランと仲良くして来たから、そんな弱いものいじめに加担しないだろうというイランの期待に応えて、その通り動きますとは言えない。そこで日本は、弱い者いじめには加わらないけれども、近くまで行ってどんな状況になっているか独自に調査する、と双方にいい顔をしようというわけです。

菅官房長官が「自衛隊によるわが国に関する船舶の防護の実施を要する状況にない」と指摘し、防衛省設置法の「調査・研究」を根拠とする考えを示したとありますが、これ

では日本が何をやっているか分かりません。新聞は複雑な話を分かりやすく解説すべきであるのに、わざと専門用語を使って分かりにくくしています。

自衛隊の中東派遣の背後に何があるか、なぜこういうことが起きたのか。本質・歴史・大局をひっくり返して考えると、第三次世界大戦が起きる危険性を示唆していると感じます。

更にもう一つ、日本の立場で見ると、北朝鮮が核ミサイルを飛ばすことも第三次世界大戦につながる火種であると言えます。この間、北朝鮮がミサイルを発射しました。それについてメディアはほとんど報道しませんでした。その日、日本海に原潜が向かい、同時に自衛隊の船舶も日本海に行きました。そして、横田基地から戦闘機が飛び立って日本海に向かったのです。日本海周辺の人たちは、戦争が始まったのかと思った人がいるとのこと。

ただ、メディアはほとんど報道しませんでした。私は、日本は報道管制が敷かれている国だと感じました。日本のメディアは世界的に見て、3.11以降、劇的にレベルダウンし評価が下がりました。今や、日本はどうしようもない国という評価に成り下がっています。第三次世界大戦が始まる火種を抱えている国としてはお粗末極まりない状況です。ですから新聞やネットの記事を見て、おやっと思った時は自分で調べることです。自分で調べない限り物事の判断は出来ません。政府が誘導する方向に考え方が流されてしまいます。

・中国、ソロモンの島を賃借 (10/19 日経新聞)

中国のやっていることをずっと見てみると、第三次世界大戦の火種をあちこちにばら撒いていると感じます。

中国の途上国への融資の実態は、その島や港を担保にとって、九十九年とか長期間にわたり借りっぱなしにして軍事施設を作る、ということを透け透けでやっています。今度はソロモン島です。時代劇によくありますが、高利貸しが悪代官と結託して金を沢山貸して、返せなければ田畑を取り上げてしまう。代官は袖の下を貰っているから見ないふりをする。中国は悪代官と高利貸しの一人二役をやっているようなものだと私には見えます。

中国が火種をばら撒いている根っこにあるのは、大中華思想です。＜中国人が世界で一番優秀である。人々はすべて我が国の傘下に入らねばならない＞という大中華思想に基づいて動いています。北朝鮮も韓国も長きにわたって中国に服従していますから、中国の言うことを聞く国民性、国家になっています。中国が何か悪さをしても面と向かって盾つくようなことはしませんが、日本に対しては言える。そういう歴史的な流れがあります。

ついでに申しますと、韓国はすでに水面下で北朝鮮と話がついていて、韓国が北朝鮮の

下に入って北朝鮮が政治を握り、韓国が経済を握るという構図が出来上がっているようです。おそらく最初は連邦政府のような格好でいくのでしょう。北朝鮮が韓国に攻撃を仕掛けるはずがないと信じ込んでいるから、南北融和を前面に出しています。

第三次世界大戦の火種を中国がばら撒いているという話で、もう一つ申します。中国は従来、ミサイルを北朝鮮に向けて配備していました。習近平は中国を連邦国家にすることを指示され、資本主義にソフトランディングするということを誓約して国家主席になった人です。もうそろそろ実行しなさい！ という長老たちとのせめぎ合いがあって、習近平が勝ったわけです。ですからその頃の長老たちは今、国外に逃げ出しているようです。

いずれにしても一触即発の状況下に来ているので、北部の瀋陽軍区（ここに軍事力が結集している）にあるミサイルが、今は北京に向いているという話があります。国内で問題が起きたら、即座に瀋陽から中国全土に向けてミサイルを発射する、という意思表示として北京に向けたわけでしょう。ですから内戦、内乱寸前です。それらが一段落したら、資本主義に向けてのソフトランディングが具体的に始まるでしょう。それが上手くいかずにハードランディングならば、内戦開始という状況になると思っています。

話が飛躍しますが、もし第三次世界大戦になった場合、皆さんは何が頼りだと思えますか？ 一番は食べ物です。自給自足が出来れば一番良いでしょうが、それが出来なければ買うしかありません。しかし、日本の終戦直後は食料を買おうと思ってもお金は役に立ちませんでした。奥さんが古着を農家に持って行って、物々交換でお米に換えたわけです。

では、これからはどうかと言うと、世界規模で見ると必要がありますから、そういう時に役に立つのはゴールドと株です。しかし、世界が滅茶苦茶になった時、株は急落します。30年前と比べてゴールドの価値は上がっていますが、日本の株は「失われた30年」でずっと停滞しています。国が悪いからです。政策に失敗して日本の国力を上げなかった政治家に問題があります。

ゴールドに関して言えば、私は通貨がなくなるということを7、8年前から言い続けていますが、やっと、それが当たり前になってきました。通貨が消滅した後、どうなるか……。最近、リブラから脱退するという話がありましたが、仮想通貨も一時期は流行るかもしれませんが、それも上手くいかないでしょう。そうなった時、やはり担保になるのはゴールドしかないだろうと考えた人たちが、ゴールドに走っているわけです。日本はそこまで頭が回っていませんから、今、日本の古い金鉱脈に外国人が入って来て再び掘り始めていることを見逃しているようです。

世界は今、本当に大きく変わって来ています。それに拍車をかけているのが温暖化です。生きていく環境がどんどん変わります。

近未来、凄まじい地殻変動があると思っています。日本がそれから免れることは出来ません。世界的に変わるのだから、日本だけ残るということはあり得ません。ただ、それらが全部一段落して、その次の社会になったらどうなるか？ とんでもない地殻変動がいつ来るか？ それによって今描いている近未来は変わります。

近未来を考える上において、我々は想像力と情報・知識を集めて、それらを活かさねばならない状況下にあります。そしてそのためには身体が健康で頭も健康でなければいけません。頭も身体も健康であれば、色々なことを乗り越える知恵が生まれます。それを信じて、私は毎日健康法を実践しています。

お時間が参りました。本日はここまでと致します。有難うございました。